

高野山印刷産業人納骨塔奉讃会
慰霊祭・追悼法要を厳修



高野山印刷産業人納骨塔奉讃会(作道孝行会長)主催(協賛:大阪印刷関連団体協議会)による恒例の「新物故者慰霊祭並びに納骨者・業界物故者追悼法要」が8月20日、高野山大霊園 大阪印刷産業人物故者納骨塔前において厳修された。関連団体代表者をはじめ、遺族、一般参拝者など、およそ165名が参拝に訪れ、納骨塔内で安らかに鎮まる故人の冥福を祈るとともに、遺族の安泰と印刷・関連業界の加護を祈願した。

高野山大霊園の印刷産業人物故者納骨塔は、大阪印刷関連団体協議会加盟の団体が一体となり、昭和48年8月20日に建てられ、その日に開眼大法要が営まれた。以来これを記念して、毎年8月20日前後に「慰霊祭並びに追悼法要」を執り行っており、今年で44回目を数える。

午前11時30分より蓮華院の東山泰清大僧正を導師として高僧4名を迎えて前讃、散華と法要は進められ、続いて作道会長が新物故者慰霊並びに納骨者追悼の辞を大要次のように読み上げた。

「納骨塔は印刷業界全体の拠り所とされ、未来永劫の宿縁を結ぶことができるようにとの願いのもとに物故者のご芳名を記した芳名録を作成して故人のご冥福をお祈りしている。新仏の中には、長年組合運営に参画され、印刷関連業界の重要な役員として尽力された方、印刷業に就かれ今日の企業に成長させた方など、尊敬する方々が多数おられ、大阪印刷関連業界が今日あるのは物故された方々の偉大な功績であることを深く感謝している」

この後も、厳肅に法要が執り行われ、関連団体代表、遺族、そして一般参拝者焼香の長い列が続いた。

本年度慰霊祭の新物故者は、関連業界から5名で、100歳代の方が1名、80歳代

の方が1名、70歳代の方が3名おられ、ご長寿での活躍が偲ばれる。

川面を眺めながらのビアパーティ
85名が親睦深める

近畿印刷産業機材協同組合は8月26日、大阪・中央区の大阪キャッスルホテル内「中華料理 錦城閣」において恒例の交流ビアパーティを開催。組合員及び組合員企業の従業員らおよそ85名が出席し、親睦を深めた。

開会に先立ち挨拶に立った坂本理事長は、「全国的に猛暑が続く中、とくに大阪は厳しい夏になっている。今日は、そんな暑さを吹っ飛ばしてほしい」と呼びかけ、声高らかに乾杯を発声した。

会場では、夏の夕暮れに映える大川の川面を眺めながら、ビール片手に組合員企業の従業員同士が歓談する場面も見られ、和やかなムードのもと、参加者は暑い夏の夜のひとときを楽しんだ。



恒例のゴルフコンペ
優勝は木田庄一郎氏

組合員交流の場として恒例となった「ゴルフコンペ」が10月27日、奈良の飛鳥カンツリー倶楽部において開催され、12名が参加した。

競技方法はダブルベリア。優勝は(株)木田鉄工所の木田庄一郎氏(OUT51、IN43、GROSS94、HDCP22.4、NET71.6)で、ベストGROSSにも同じく(株)木田鉄工所の木田庄一郎氏が輝いた。



▲優勝の木田氏(左)

古希以上の長寿を祝う
大阪天満宮で「長寿会」



大阪印刷関連団体協議会(作道孝行会長)は11月4日、北区の大阪天満宮において秋季恒例の「長寿会」を開催した。

長寿会は、協議会加盟団体の70歳以上の経営者および役員を招き、長寿を祈願したあと、会食を通して旧交を温めてもらおうと昭和43年、前身の明治会当時から実施されているもので、本年は第49回を迎える。

この日参加者は、午前11時30分より大阪天満宮本殿において長寿祈願お神楽を奉納後、記念撮影を済ませて、向かいの相生楼に会場を移して懇親のひと時を過ごした。

席上、挨拶の中で作道会長は「変えるべきもの、変えてはならないものを見極め、しっかり組織運営に努めていきたい」と難しい時代の業界動向にふれながら、先輩の功労に感謝の意を込めて挨拶した。

懇親会では、久しぶりの再会に歓談の花を咲かせる光景が随所で見受けられ、宴半ばでは関西を中心に国内外の舞台上で活躍する傍ら、後世の育成にも力を注いでいる津軽三味線内田流師範の大黒恵子氏によって熊本地方の民謡「おてもやん」に続き、ソーラン節メドレーなど、津軽三味線曲弾きが披露され、和やかなひと時が持たれた。